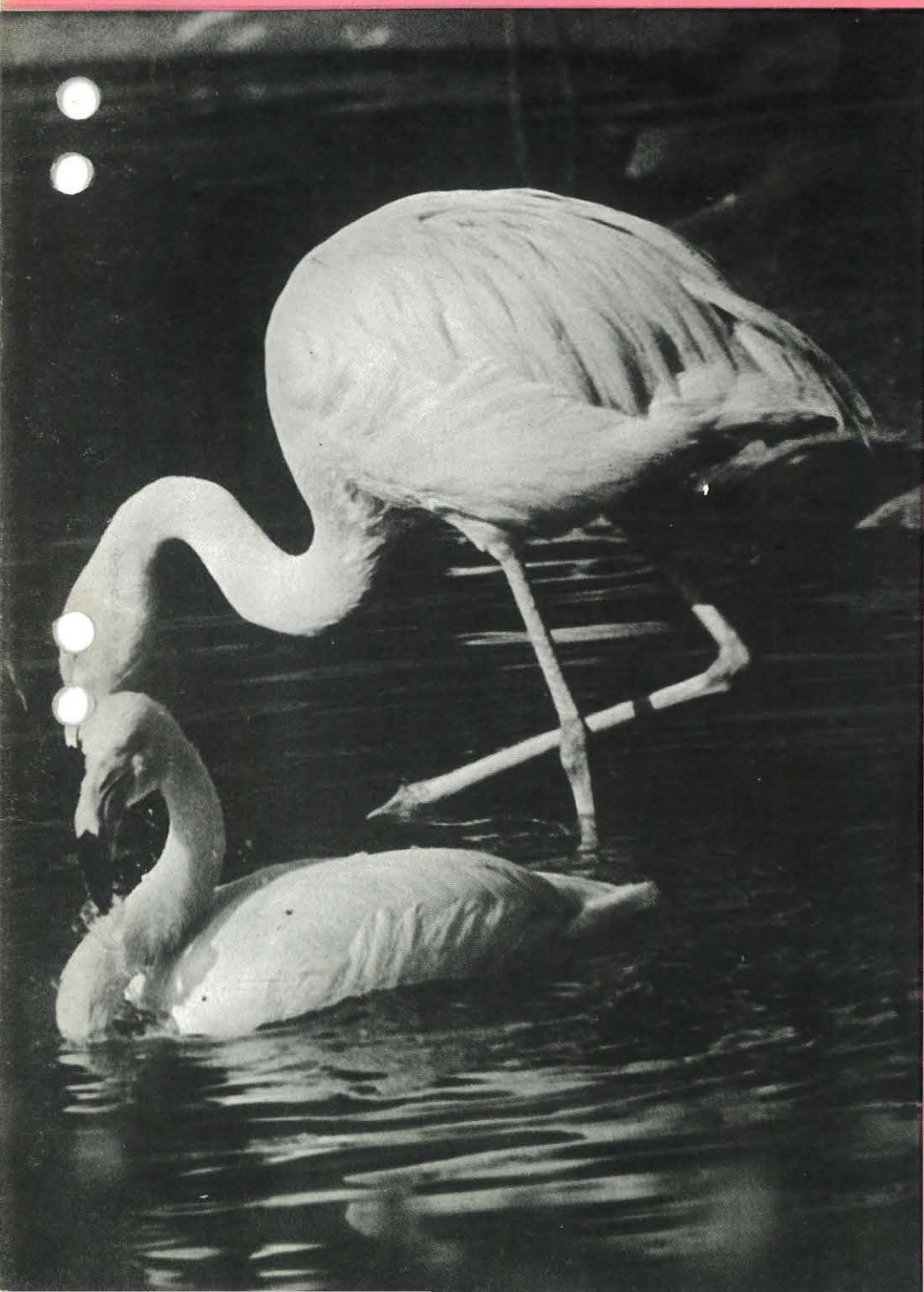


なきごえ



1971

5

大阪市
天王寺動物園協会

世界のフラミンゴ

小林 桂 助

フラミンゴの仲間には次の6種がある。

- (1) オオフラミンゴ *Phoenicopterus ruber roseus*
アフリカ、地中海沿岸、中央アジア、印度北西部等に分布。
- (2) ベニフラミンゴ *Phoenicopterus ruber ruber*
アメリカ大陸大西洋岸の熱帯、亜熱帯、キューバ、バハマ等に分布。
- (3) チリーフラミンゴ *Phoenicopterus ruber chilensis*
ペルー、ウルグアイからフエゴ島東部に及ぶ南米の温帯に分布。
- (4) コガタフラミンゴ *Phoeniconaias minor*
アフリカ南部及東部、マダガスカル、印度北西部に分布。
- (5) アンデスフラミンゴ *Phoenicoparrus andinus*
チリーアンデス、アルゼンチンアンデスの北西部に分布。
- (6) ジェームスフラミンゴ *Phoenicoparrus jamesi*
ペルー南部、チリー北部のアンデス山脈、アルゼンチンの最北西部に分布する稀種。

この中日本の動物園で普通に見られるのはオオフラミンゴ、ベニフラミンゴ、チリーフラミンゴ、コガタフラミンゴの4種だけである。ジェームスフラミンゴは大へん珍しい種類で一時は絶滅してしまったとまでいわれていたが十数年前にまだ生き残っていることが判った。

フラミンゴの仲間はどれも大へん美しい鳥である。体の割合に頸(くび)と脚(あし)とがふつりあいな位長く、飛ぶ時には頸と脚とを水平にのばしてゆっくりとはばたく。体は白やピンクであり、翼(つばさ)には黒い部分がある。オオフラミンゴ、チリーフラミンゴ、コガタフラミンゴは少しピンクを帯びた白で翼の部分に濃い桃色があるが、ベニフラミンゴは全体が深い桃色でこの仲間が一番美しい。

この仲間の鳥はくちばしの形が他の鳥と大へん変っている。上くちばしはふたの様な形であり、下くちばしは箱の様に深く、シャベルの様な形であるので泥水の中で沼から藻や虫等のえさをすくうのに役立つ。又くちばしの両側にはぎざぎざがあるので水やえさを一しょにすくい上げ水だけがここから流れ出てえさだけが口の中に残る仕組みになっている。舌は下くちばしに一ぱいになる程太くて丸く、両側には内に向って堅い突起が並んでいる。この舌は大昔王様の食べものとして珍重された程おいしいものといわれている。

いつも水辺の沼地や浅瀬で生活しているが、時には腹まで水につかる深い所まで入ることもあり、あしゆびにはみずかきがあるので水の中を泳ぐことも出来る。また泥水のところではあしで泥をかきまわし浮き上がったえさを食べる。

いつも大きな群となって生活しアフリカではオオフラミンゴやコガタフラミンゴが数百羽から時には十万羽以上の群となっていることも珍らしくない。ことにケニアのナクル湖は有名であり、大群が湖面に下り湖が一面にまっ白に見えるのは大変壮観である。



チリーフラミンゴ

繁殖期には泥地に集団して巣を作る。くちばしで土をすくい上げて塚の様に積み上げて巣にするが、この塚が乾燥してかたくなるとその上面の少しくぼんだ所に卵を産む。この塚は直径30~40センチ位で高さは20センチ位から40センチ位のものまでである。この様な巣が沼地一面に密集して作られ、1メートル四方に2、3個もより合っている。1巣に普通1卵をうむ。産みだての卵は白いが泥のあくで汚れてかっ色になっていることが多い。親鳥は長いあしを折りまげてこの上に座り卵を温めるが卵は30日前後でひなになる。ひなは灰色の綿羽でおおわれてガチョウのひなに似ているがくちばしとあしとは赤い。2、3日は巣の上で親鳥が口からはき出すえさを食べているが、少し大きくなると巣をはなれ、付近を歩きまわり泳ぐことも出来るようになる。沢山のひなが集まって生活し、1ヶ月位たつとくちばしも親鳥の様な形になって来る。親鳥はひなの大群の中で自分のひなを区別することが出来て自分のひなにだけ餌をあたえている。ひなは2、3カ月すると一人前に飛ぶことも出来るようになる。

だがフラミンゴには天敵も少なくない。アフリカではハゲコウが集団営巣地をおそって卵やひなを片ぱしから食べてしまうことがある。いつも湖面上空を舞っているサンショクウミワシのえさとなるひなもある。又フランス南部ローヌ河口のカマージュでは野ふたにおそわれることもあるといわれている。更に洪水によって集団して作られた巣がほとんど流されてしまうこともある。この場合にはフラミンゴの集団は他の安全な地を求めて再び巣を作りなおさなければならぬ。種族保存のためにはフラミンゴの生活にもきびしいものがある。

なぎごえ5月号もくじ

世界のフラミンゴ.....	2
野鳥保護雑談.....	3
動物園グラフ.....	4・5
チリーフラミンゴ自然繁殖概況について.....	6
動物園ニュース.....	7

野鳥保護雑談

津田 松 苗

自然資源あるいは自然物でこわされてしまったときに、回復の可能なものと回復の不可能のものがある。たとえば石油や石炭のようなものはいったん燃やしてしまえばおしまいだ。これは回復不可能の自然物である。森林や草原や野獣・野鳥などは回復可能な自然物である。破壊されても回復はできる。もちろん理論の上の話である。そしてそのうちにも回復の早いものと遅いものがある。奈良の春日山の自然林のように長年月をかけてできたもの(極相林)はいったんこわされると回復にはとても長い年月がかかる。それこそ多分奈良朝以来からの時間をかけてできたものだからだ。

鳥・獣あたりは、環境さえ適当であれば、いったん減ってもまた回復させることができる。もちろん種が絶滅してはどうしようもないが、どこかに種の保存に充分な個体群が残っている場合のことである。

コウノトリとかトキとかのような種類は種個体群の保持がもうできない段階にきている。ついこの間能登系の最後の1個体“能里ちゃん”が死んで、この個体群はピリオドを打ってしまった。10羽ほど残っているという佐渡系の命脈もいつまでのことか。コウノトリについても同じことだ。これらの鳥の個体群を維持する環境が、もはや成立していないのである。

ハワイ島の旧噴火口の溶岩のスロープなどにすんでいたネネ(ハワイガンとよぶ)が絶滅寸前のところまで来ていたのを“ネネ・飼育計画”を立てて見事絶滅から救ったような例もあるが、なんとといっても



“ゲンゼメーデル(雛娘)の像”
ドイツ・ホルスタイン地方のブレン湖畔。ブレン市にある石像。昔、湖の雁に餌をあたえて可愛がった少女を記念する像。
(筆者撮影)

日本の上述の2つの鳥の場合のように自然の生態学的人為的变化によって、種個体群の存在が消えかけているというのは困ったことである。

多くの動物はもう少し融通性があるようだ。琵琶湖の南湖盆を数年前から禁猟地にしたから、たちまちカモの群がよってきた。湖岸近くにたくさんのカモが悠々として浮んでいるのがみえる。東京の上野の動物園の池



“ハワイのホテルにて”
部屋の中に鳥が入ってくる。種類はチョウショウバト(barred ground dove)。
(筆者撮影)

に野性のカモが毎年たくさんくることも皆さん御承知のとおりである。あの雑踏のなかでも、安全とみれば、そして食物があれば、鳥は来るのである。

以前とくらべて鳥獣愛護の気分はかなり進んだようにわたくしは思う。空気銃が自由にうてなくなったのもありがたいことだ。わたくしは京都の桃山に住んでいるが、家の庭にも野鳥がやってくる。ヒヨドリとヤマバトが一番多い。小さい池で水浴していくが、パン屑や残飯などをやっているうちにだんだん慣れてくるようになった。忙がしきにかまけてきまぐれなやり方なので、非常に慣れるところまではいかなが、暇な身になれば、中西悟堂先生の境地の百分の一位にはいけるかなと思うくらいである。

そういえば、野鳥を餌づけする人がこのごろ増えているのではなからうか。新聞にもちょいちょい出る。つい先日にも布施市のある家に野生のブンチョウがたくさん集ってくる話が出ていた。

欧米では野鳥に餌をやる習慣がすっかり板についている感じである。鳥の方もよくなれているが、それは鳥と人との交流の歴史が深いからだ。とはいっても、野鳥と人との仲よくなるのにそんなに長い年月をかけなくとも、こちらの心掛け次第で、うまく行くのではないかと思う。幼稚園や小学校の教育のなかにとり入れてはどうだろう。あるいはママの趣味のなかにこういうこともあっていいのではないか(生花やお茶のお稽古も結構だが)。

ともあれ、野鳥の餌づけ、野鳥との交流というのは高等な一つの趣味ではないだろうか。ゴルフ・ボウリングなどのほかに魚釣りもレジャーのブームらしいが、野鳥餌づけが流行するというようなことになれば嬉しいことだ。
(奈良女子大学教授)

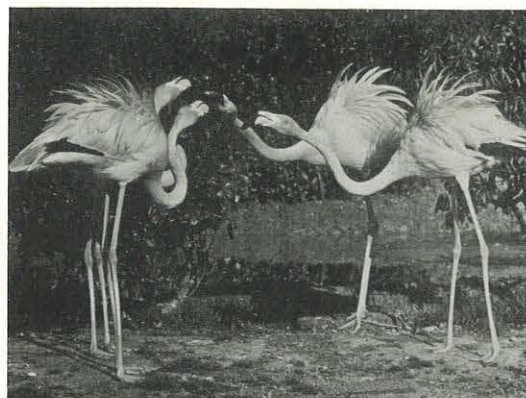
動物園グラフ

“フラミンゴ”

フラミンゴには、6種ありますが、そのうち日本には4種が飼われています。

当園には、うち3種のフラミンゴが1カ所で雑居していますが、はじめての方は、なかなか区別がつきにくいようです。

ここで、その生態写真をとりあげてみましたが、カラーではないので少々わかりにくいと思います。

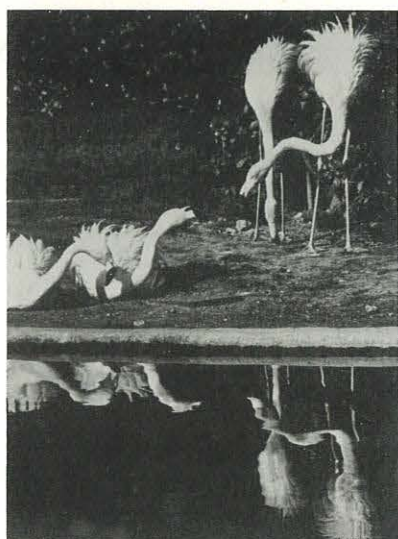


↑キューバフラミンゴ

羽の色がピンクで、大変美しいフラミンゴです。何のおしゃべりでしょうか、嘴を合わせています。アメリカのフロリダ半島や、キューバに分布しています。

チリーフラミンゴ

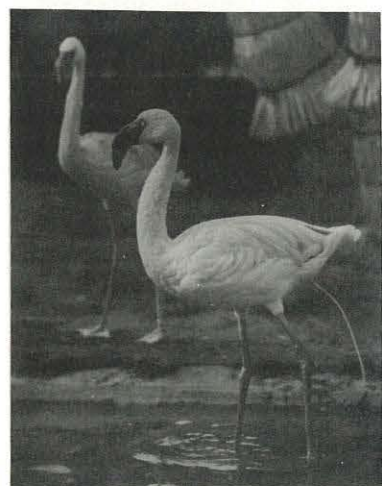
南アメリカのチリーに分布しています。やや小型で、あしの色はうす青色ですが、関節だけが、赤いのですぐわかります。



コガタフラミンゴ

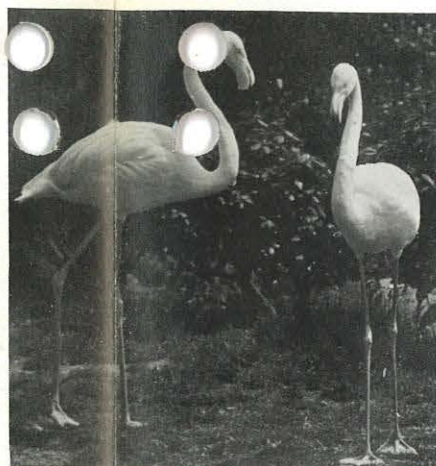
顔があざき色で、覆面をしたようなのが特徴です。大きさは、キューバフラミンゴぐらい。

↓ (写真：東京動物園協会提供)



←

水にうつる姿も大変うつくしく、たいい動物園では、正面付近にフラミンゴの池をつくっています。



←

ヨーロッパフラミンゴ他の種類に比較して大きくて立派です。羽根の色はやや白い。ヨーロッパとアフリカ北部に分布しています。

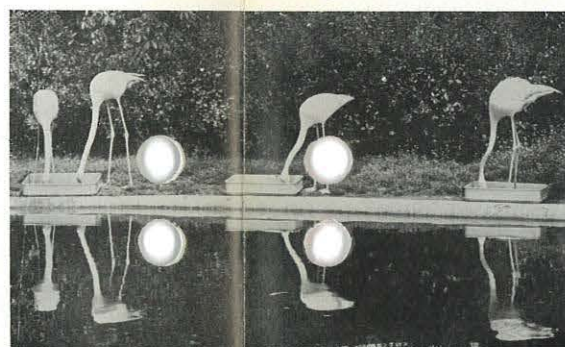
はばたき

時々運動のためか、水の上をはばたいて走っています。きっと大空へ飛び立ちたいのでしょうね。



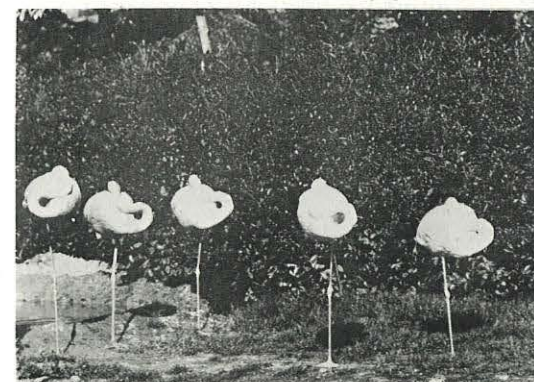
←

餌を食べる。餌は、サクラエビ、チリメンジャコ、フナコ、ムキアワ、魚粉やにんじんのジュースも与えています。



休憩

一本足で上手に立っています。ちょうど白とピンクの花がさいたようです。



3～4月動物園日記

- 3月21日 お彼岸の中日はよいお天気に恵まれ、有料入園者は37,000人を数えました。
- 24日 ハイイロカンガルーの母親が死にました。
- 27日 ゾウやその他の草食獣のために、牧草を自家栽培しようということになり、園内の空地や公園予定地に牧草の種子をまきました。

- 3月29日 キリン2頭が、いわゆる“月曜病”となり、一日中腹痛症状を訴えましたが、2～3日後平常にもどりました。
“月曜病”とは、前日の日曜日にお客が与えたお菓子類を食べすぎてお腹がはって痛くなり、食欲や元気がなくなることです。
- 4月1日 セイランが産卵し自然抱卵しています。
エジプトガンも自然抱卵しています。
- 2日 シマハイエナが元気がないので治療しています。

- 4月4日 ブラックバックが生まれました。
- 8日 トラのめすは、出産が近いので分娩室に入れてやりました。
- 9日 クロヒョウは皮膚病にかかっていますので、治療しています。
- 10日 アグーチが1頭生まれましたが、2日後、惜しくも死にました。
- 13日 エランドのめすは出産が近いので、寝室に入っています。

- 4月15日 トラが出産しました。母親トラも興奮していますので、飼育係もできるだけそっとしてやっています。頭数は今のところ不明です。
- 17日 バーバリシープが生まれましたが、雨のため全身がぬれて冷えたためか、惜しくも死にました。
- 18日 キツネとタヌキの寄附がありました。
フラミンゴが泥をこねて巣作りをはじめました。

チリーフラミンゴの
自然繁殖概況について

越前松島水族館

源野行雄

当館飼育中のチリーフラミンゴは、昭和39年8月購入の8個体で入館時は既に成鳥(3才位)と思われました。それは、現在自然繁殖のものが20ヶ月を経た今日、未だ雛とはっきりと見分けが出来る事から考えられます。入館時においては、熱帯産の鳥類という事で、初めての飼育でもある事から、冬期の暖房等を考え、柵内に寝室を設けたりなどをしましたが、今日まで1回の入室もしたことがありません。一度無理に入室させた事がありますが(厳寒日)その時は窓の硝子を破って外に出てしまいました。

42年と43年に赤土(砂分を多く含む)を柵内に入れ、人工で大体の巣の形に盛り上げてやりましたが、巣作りの様子は見られず、わずか43年多少見られた程度でした。勿論営巣、産卵などは見られませんでした。

44年4月、赤土を補給してそのままに放っておきましたところ、2番が巣作りを始め、営巣に入りま

した。そしてA番は6月24日、B番は6月24日それぞれ1個の卵を生み、おす・めす交代で、卵をだいでいました。

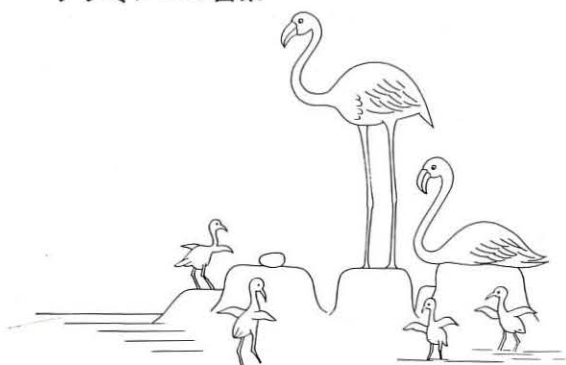
A卵は7月20日にB卵は7月27日にそれぞれふ化しました。其の後親鳥の羽毛の中で順調に養育されて成長し今回に至っております。これについて、日本動物園水族館協会より、45年度の繁殖賞を授与されています。45年度は、4月に赤土の補給を行いました所、3番が巣作りを始め営巣に入り、A番は6月13日、B番は6月21日それぞれ産卵をし、抱卵に入りました。そしてA卵は7月12日、B卵は7月17日にふ化致しましたが、C卵はふ化を見ず、7月27日に検卵をしましたところ無性卵とわかりました。

B雛はふ化後2日目親鳥が外部の物音におどろき雛をふみましたので、その重みで死亡してしまいました。

A雛は其の後も順調に成長して今日に至っております。体格そのものは、親と同じ大きさですがまだ体全部灰色をしていて、フラミンゴ特有の赤色など一点もありません。

(越前松島水族館)

フラミンゴの営巣



表紙の写真説明

“フラミンゴ”

水浴が好きで、暖かくなるとよく見かけます。水浴をして、羽虫を落したり、羽根をととのえます。

★ワシ2種入園



ウミワシとカムクワシ各1羽が、入園しました。動物交換として入ったものですが、いずれも幼鳥です。北園の猛禽舎でお目見得しています。

★シュバシコウの抱卵状況

シュバシコウは今年は4番が営巣し抱卵しています。それぞれ3~4コの卵をあて、めていますが、例年なら5~6コを産んでいました。今年はどうしたことでしょう、少数精鋭主義になったのでしょうか。

今年も昨年と同じ日に産みはじめました。早く産んだ巣のもので、4月20日頃に、遅い巣のもので、5月20日頃にふ化予定です。

なお、他の1つの巣で卵を産みっぱなしの親があり、この巣の4つの卵は、チャボに3つと、電気ふ卵器に1つ入れてふ化することにしました。

★ミミズ繁殖法教えます



3月21日、キーウイの好物であるミミズの繁殖法を教えましょうと、アメリカのイリノイ州にお住まいの歯科医、エル

イン・F・ゲルトマイヤーさんが、来園されました。早速、ミミズの養殖場で、土まみれになりながら丁寧な指導して下さいました。きっとキーウイの食べやすい、いいミミズがたくさんできるでしょう。

★バクの赤ちゃん



バクの赤ちゃんは生まれてすぐに母親から離されて人工哺育されていましたが、このほど、やっと母親と一しょにされました。暖かい日ざしの中で、母親にあま

えてほ・えましいところを見せています。

★カンガルーの赤ちゃん



ハイロカンガルーの赤ちゃんが、袋から出て人気を集めています。このハイロカンガルーは、オーストラリアから万国博記念に入園したのですが、昨年ひきつゞき今年も2頭が生まれていましたが、うち1頭の赤ちゃんは袋の中

のうちに、惜しくも死んでしまいました。

写真のは、やっと、一人歩きできるようになったカンガルーです。しかし、この母親も、育児の疲れが急に出たのか死んでしまい、一人ぼっちになりました。しかし、もう、母親がいなくても元気に育っているでしょう。

“71”春の動物園まつり

期間中の
日曜祝日

5月1日~5月16日

○小人入場者先着

500名にプレゼント

○チンパンジーの演技

○動物無料相談所開設

○幼稚園児の遊び

○入園記念スタンプ

☆%~% クイズ鳥のなきごえを

☆% あてよう

☆% ぞうの目方を計る会

☆% 民謡踊り

☆%~% 大阪南港に住む鳥の写

☆% 真展

☆% 子供のための

フジファミリー撮影会

主催 大阪市天王寺動物園

協賛 大阪市天王寺動物園協会

クイズ

とりのなきごえを
あてよう!!

☆会期 5月1日~

☆投票資格

4才~12才

投票用紙に記入の上

投票して下さい。

☆授与

5月16日

的中者多数の場合、抽せん

で10名さまに賞品をさしあ

げます。

主催 大阪市天王寺動物園

協賛 ひかりのくに出版社

動物園まつり記念スタンプ



訂正...3月号の「日本の鳥の保護」で芭蕉の句として引用
しました雁の句は、一茶の誤りでした。
証正します。(黒田長久)

編集委員

入口 富夫 米田 敏光 松岡 惠爾
林 邦彦 樽本 勲 深井 和美
大野 尊信 田上 勝 東 政宏
和田 辰巳 中川 道朗
加幡 一男 農本 武志

なきごえ 昭和46年5月15日発行(毎月1回15日発行)第7巻第5号(通巻70号)

編集/大阪市天王寺動物園 発行人/加藤寿雄

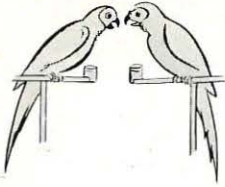
印刷所/株式会社 松村善進堂

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

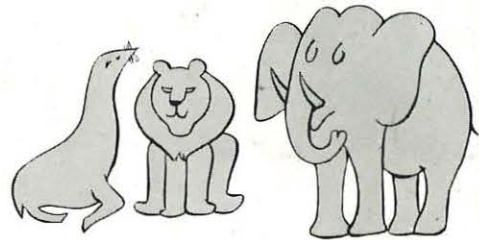
振替口座 大阪 37823

定価 50円



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話 (078)22-8195・22-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



オイシサも…

品質も…

グーンとアップ!

グリコジャイアンツコーン

●パニラ・ナッツ・チョコレート

30円50円

★とろりとした
良質のチョコレートに
ナッツがかかっている!



グリコ アイスクリーム

江崎 グリコ 株式会社